

学校関係者評価報告書

御茶の水美術専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人服部学園 御茶の水美術専門学校の令和5年度自己点検・自己評価の結果報告に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり評価結果を報告いたします。

記

1. 開催日時

令和5年11月2日（木）10:00～12:00

令和6年 6月13日（金）14:00～16:00

2. 開催場所

学校法人服部学園 御茶の水美術専門学校 会議室

3. 学校関係者評価委員

委員長 渡部卓明（企業）

委員 長倉義信（公益法人）、星賢人（企業）、加藤祐貴（企業）、阿部克也（企業）

4. 議事経緯

令和5年度上期（11／2委員会）および年間（6／13委員会）の自己点検・自己評価の実施結果について、学校関係者評価委員会において学校側関係者より説明・報告を行い、各委員から評価結果に対する評価コメントならびに改善に向けた意見・提言をいただいた。委員の総括評価および主な評価コメントは以下のとおり。

5. 評価結果

(1) 総括評価

学校側による293項目の自己点検結果は、「○」が243項目（82.9％）で昨年度より7項目増加し、全体的には良好な教育活動・学校運営が遂行されていることが確認できた。しかし、一部項目において改善すべき課題があるため、課題項目毎に策定した改善方策を確実に実行し、更なる教育活動・学校運営の質の向上を目指すよう期待する。

(2) 各委員の主な評価コメント

①御校で主軸とされているデザイン、マーケティング、サステナビリティの重要性について、企業でも経営者に近いほど理解しており、経営戦略に組み込んでいるが、実行が追いついていない。特に食品業界はデザイン面で遅れをとっていると感じるが、課題を理解している企業も存在する。この課題に取り組む企業に学生がフィットする可能性はまだ広まっておらず、その企

業を見つけ出すことが、今後学生の就職先として繋がっていくと感じた。自分自身も貴校の産学連携授業に参加し、カリキュラムの素晴らしさを感じた経験から、こうした就職活動のやり方も推進していったほしい。

②AI を活用した授業展開について。1 年生が卒業する頃には、AI がさらに企業に浸透し、その領域に長けた学生が雇用されることで企業が変化すると考えられる。AI の進化は速く、キャッチアップしていくことは難しいため、オリエンテーションや特別授業などの自由参加の講義の場を設け、AI の専門家に授業をお願いしてみてもどうか。それによって学生が AI の可能性に気づき、自主的に活用していくと思う。AI が作ったものを調整するのに必要なデザインの技術も教えていくというのはどうか。

③高校生の認知という点において課題があると感じる。さらにオープンキャンパスへの参加となるとハードルが高い。SNS の運用型広告などで興味を引くコンテンツを配信されているが、説明会の告知が多く、学校の授業編成を理解したいというニーズに応えられているかは疑問が残る。学校案内書は詳細で興味を引く構成になっていると思う。オープンキャンパスへの参加を促進するために、入学を検討する際にボトルネックとなる要素を改善することで、入学者が増加する可能性があるだろう。

④活動報告を見て、貴校の特徴として学生に企業などのクライアントへの発表や意見交換の機会を多く提供している点が非常に印象的だった。学生たちが生き生きと授業に取り組んでいる様子は高く評価できるが、卒業後に社会で自分の実力を発揮する機会が減ることで意気消沈するケースもあり、卒業生の追跡調査が充分でない点が気になる。卒業生の社会での活躍が学校の評価にも繋がるため、今後もその点に取り組んでほしいと感じている。どこに就職したかで評価はできないが、実績を見ると以前にはなかった有名な企業名が並んでいるので、こうした情報を積極的に発信することが重要だと思う。

⑤御校の取り組みは非常に充実していると感じた。「海と日本プロジェクト」をたまたま見かけて興味深かったのを覚えている。また、活動報告での文具メーカーに勤務する卒業生の話が印象的だった。卒業生への支援も、実際には多くの取り組みが行われていることが分かった。学生の言葉や卒業生の意見をアンケートで回収し、充実させることが今後の課題だと思う。学校案内書では卒業生の情報が他の項目と比べて少なく寂しい感じがする。御校の進路の充実度は高く、高校生や保護者に響く内容と言える。卒業生のアンケート結果を、SNS で拡散していくことで、何か展開があるかなというふうに思った。

以上